

離任のご挨拶

着任後、丁度丸三年となります。今月、総領事としての任期を終えて帰国することになりました。離任に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

着任前は、フランクフルトと聞くと、大きな国際空港と鉄道駅、高層ビル、金融、メッセといった言葉しか思い浮かびませんでした。しかし、実際に住んでみると、広い森や公園、多様な美術館やコンサートホールもあり、経済、自然、文化が上手く調和している街だという感を強くしました。週末は、メイン河沿いや森の中のサイクリングが楽しみとなりました。

この三年間、政治、経済、社会、文化等様々な分野でドイツと日本に関係する大きな動きがあり、多くの行事に参加させていただき、日独双方の関係団体の方々と連携させていただきました。この場をお借りして、いただいたご支援・ご協力に対して心より感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

経済面では、日・EU 経済連携協定が締結され、保護主義が高まる世界経済の中で、自由貿易を進展させる重要なモメンタムとなりました。日独間の貿易や投資の増加も期待され、当館では、JETRO やドイツの商工会議所と協力して日独経済に関するセミナーを開催したり、日本産食材・酒類のプロモーションのイベントを実施しました。また、Brexit を契機として多くの日系金融機関が欧州本部拠点をロンドンからフランクフルトに移すなど、金融都市としてのフランクフルトの重要性も高まっています。

文化面では、ニッポン・コネクション映画祭、メイン祭り、独日協会のヤープン・ターク等の場で、日本文化紹介行事を実施させていただきました。フランクフルト中心部での夏の盆踊りにも参加させていただき、楽しい思い出となりました。それに加えて、日独間の姉妹都市交流の活発さも嬉しい驚きでした。一般市民の方々や青少年の相互訪問を通じて、両国の人々が強い友情と信頼関係を築いていることは素晴らしいことです。こうした活動はボランティアとして活動している方々の強い熱意と長年にわたる努力があってこそ初めて可能となると思います。そうした方々のご尽力に心から敬意を表します。

残念ながら、この一年間は新型コロナウイルス感染拡大のため、対面の行事の多くが延期・中止となりましたが、一方で、日独交流160周年事業としてオンライン上での和食デモンストレーションや外交セミナーといった新しい試みも始めました。

また、当地在住の在留邦人の皆様が安心して気持ちよく生活していただけるよう、ドイツの治安情勢やコロナ関連規制措置に関する情報をできるだけ迅速に提供し、また、領事窓口

サービスの向上に向けて，館一丸になって努めて参りましたが，如何だったでしょうか。

在留邦人の皆様におかれましては，引き続き感染に十分注意の上，お元気にお過ごしになるよう心よりお祈りいたします。

河原 節子

在フランクフルト日本国総領事

フランクフルト・ザクセンハウゼンの桜

